平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

安芸高田市立来原小学校の取組

研究テーマ
自他のよさや違いを生かし，つながり合い，
共に高め合う児童の育成
～　道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の工夫を通して　～

授業実践①（プラン）

◆第２学年　国語科　単元名「スイミー」

◆本時の目標

すばらしい海の世界で，だんだんと元気を取り戻すスイミーの様子を，想像を広げながら読み取ることができる。

◆児童の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

学級全体の状況
話を最後まで聞いて一斉指示だけで活動することが難しい児童が数名おり，一つの活動への集中が持続しにくい。

特別な支援が必要な児童の状況
いろいろな物や音に敏感に反応し，気が散りやすい。注意を持続させることが難しい。
文章の読み・書きに抵抗がある。学習意欲はあるが，課題が難しいと感じると，意欲をなくし，気持ちを切り替えるのに時間がかかる。

指導・支援のポイント
①音読の工夫　②見通しのもたせ方　③集中のさせ方
④指示の仕方　⑤関わらせ方

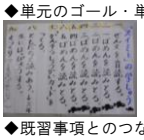
授業実践②実践の具体

①音読の工夫

毎時間，授業の始めに５分間程度。多様な方法で繰り返し。様子を思い浮かべながら。
＜本時＞・起立読み（起立して，自分のペースで読む。声の大きさは２。）
・一文交代読み（座ってペアで）
・一文交代読み（二人ずつ起立して全員で）

②見通しのもたせ方

◆単元のゴール・単元計画→見通し，意欲付け



・学習が終わると，スイミーのマークをはって確認
⇒達成感，次時への見通し
・毎時間，その場面のスイミーに話しかけるように感想を書く（パターン化）⇒感想紹介カードを書く活動へ

◆既習事項とのつながり

前時までの学習を掲示しておき，本時の始めに確認⇒導入で理解状況をそろえる。

授業実践②実践の具体

③集中のさせ方

◆ペープサート

・動きを伴う活動
⇒集中できる時間を増やす。
⇒イメージをふくらませる。
・挿絵（絵本）の活用
・動かしながら，ペアで，スイミーになりきって交代でお話

◆心情曲線

「『見るたびに』『だんだん』元気をとりもどした」という気持ちの変化を心情曲線で視覚化し，捉えさせた。

授業実践②実践の具体

④指示の仕方

・視覚的支援を取り入れ，一つの物・場所を見せながら指示する。
・黒板に貼る，線を引く，書く，読む，動作化など，作業を伴った指示を心がける。
・指示が伝わっているかどうかを確認し，評価する。（言葉かけ，合図）
・配慮を要する児童への評価を先に行う。一時に一事の明確な指示をし，できたらすぐにほめる。望ましくない行動は，計画的非対応を基本にする。

⑤関わらせ方

◆ペア活動

・叙述をもとに想像したことを話し合う活動
・二人で音読

授業実践③成果・課題

◆成果

○本時の評価規準「だんだんと元気を取り戻すスイミーの様子を想像し，話したり書いたりしている。」
・全員が，海のすばらしいものに出会い，元気を取り戻すスイミーの様子を想像して話したり書いたりすることができた。

支援

○効果的であった支援
・ペープサートの操作，絵本の活用⇒集中できる，イメージがもてる　＜③＞
・板書（視覚的支援）　⇒気持ちの変化を捉えやすい　＜③＞
・指示→確認→評価　⇒すぐにほめることで，意欲づけ　＜④＞
・ペアの活用（音読，話し合い）　⇒教え合い，考えの広がり　＜⑤＞

◆課題

○本文の言葉を児童から引き出す工夫。
○心情曲線で表したスイミーの気持ちの変化→児童の言葉でまとめる。　＜③＞
○ペアでの話し合わせ方，全体での意見の出させ方　＜⑤＞

授業実践④今後の改善点

◆挿絵と本文
・子供が，「ここにこう書いてある。」という瞬間を逃さない。子供から本文の言葉を引き出す。

◆子供同士の関わり合い
・ペア活動で考えたくなる課題を提示する。
・考えが深まるような意見交流のさせ方を工夫する。
・よい関わり方を評価する。

普及・啓発①拠点教諭の取組

校内研修での還元

◆個別の指導計画，個別の教育支援計画の作成・活用の意図や活用法について共通理解を図る。
→具体的な取組内容を決め学期毎に評価を行い，次学期の取組につなげる。

◆巡回相談，発達障害に関する教員の専門性向上事業研修内容の還元等，校内研修の実施

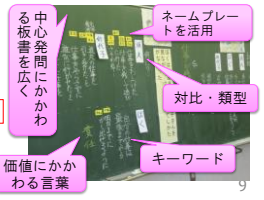
総合講座　特別支援教育
「ユニバーサルデザインの授業づくり」講座　H27.10.22

普及・啓発②拠点教諭の取組

◆共通取組事項「来原スタンダード」の継続実施

☆学習の見通しをもたせる。
☆掲示物の統一（学習中の姿勢，学習の基本の進め方‥）
など

◆道徳の時間の取組
＊発問構成の工夫　焦点化
資料分析⇒中心発問⇒基本発問⇒補助発問
＊伝え合いや学び合いの仕方の工夫
中心発問における話合い
問い返し・ペアやグループで　共有化
板書・・・思考の助けになる工夫　視覚化



普及・啓発③拠点校の取組

安芸高田市特別支援教育研修会

◆研究授業　国語科「スイミー」
◆実践発表
「通常の学級における発達障害のある児童生徒への指導の工夫について」

市内小学校への訪問（挑戦支援加配）

◆校内研修参加
・授業研究，模擬授業
・特別な支援が必要な児童への支援の在り方について，交流・協議
・専門性向上事業研修会研修内容の還元

学校として取り組む際のポイント
ユニバーサルデザインの授業づくり　　など

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	◆実態・背景をふまえた支援のポイントを，授業づくりの段階で計画して取り組むことで，必要な支援を行うことができた。	◆理論に基づく授業実践の検証の機会が少ない。
普及・啓発	◆研修内容の還元，実践報告等により，特別支援教育の考え方に基づいた授業づくりのベースについて，校内，市内小学校，市内研修会において提案し，実態に応じて指導方法を工夫して行くことの重要性について確認した。	◆保護者・地域への情報発信 ◆ユニバーサルデザインの授業づくりについて実践をもとに教職員・保護者の理解を深める。

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	◆ユニバーサルデザイン化モデルに照らして支援の目的を整理し，子供同士がつながり合い学び合いながら全員が本時の目標を達成するための適切な支援を考える。 ◆ユニバーサルデザインの授業づくりについて，学校全体で取り組む内容を焦点化し，提案・実践するサイクルを構築する。
普及・啓発	◆市内研修会において実践発表する。 ◆各学年の実践内容を定期的に校内に発信し，広める。 ◆公開研究会やホームページ，学校だより等を通した保護者・地域への定期的な啓発を行う。